

・韓国で MERS 患者が発生

韓国で中東から帰国した男性が中東呼吸器症候群(MERS)にかかっていることが明らかになりました(WHO Disease outbreak news 2018-9-12)。この患者はクウェートに3週間滞在し、9月7日、仁川空港に到着しました。肺炎の症状があったためソウル市内の病院に運ばれ、そこで診断がつけました。9月25日の時点で二次感染者は出ていません。韓国では2015年に186人の患者が発生するMERSの国内流行がありましたが、今回は早期に対応がされており、流行は拡大していない模様です。

・パプア・ニューギニアでポリオ患者発生

パプア・ニューギニアの首都ポートモレスビー近郊で、男児(6歳)のポリオ患者が確認されました(英国 Fit For Travel 2018-9-11)。パプア・ニューギニアでは5月以来、ポリオ患者の発生が報告されていますが、首都近郊での患者確認は初めてです。日本の外務省は、同国を含めポリオ発生国に滞在する者に、ポリオワクチンの追加接種を推奨しています(外務省海外安全ホームページ 2018-9-3)。

・コンゴ民主共和国でのエボラ熱流行

コンゴ民主共和国・北東部で8月に発生していたエボラ熱の流行は、9月も続いています(WHO Disease outbreak news 2018-9-21)。新規患者の数は9月になり少なくなっていますが、ウガンダ国境近くの大都市 Butembo 近郊でも複数の患者が確認されています。9月中旬までの累積患者数は142人で、このうち97人が死亡しました。

・アフリカ各地でコレラの流行が発生

アフリカ北部のアルジェリアで8月初旬からコレラが流行しています(WHO Disease outbreak news 2018-9-14)。首都アルジェなどを中心に9月上旬までに200人以上の患者(疑いを含む)が確認されました。同国では20年ぶりの流行になります。アフリカ南部のジンバブエでも、9月から首都ハラレなどでコレラが流行しています(WHO Disease outbreak news 2018-9-20)。9月中旬までに患者数は3,600人(疑いを含む)にのぼり、32人が死亡しました。コレラには経口ワクチンがあります。日本では未承認で

すが、一部のトラベルクリニックではこれを輸入し、希望者に接種しています。流行地域に滞在する際には接種を検討してください。

・ヨーロッパで西ナイル熱が流行

今年の夏はヨーロッパ各地で西ナイル熱の流行が発生しています(ヨーロッパ CDC 2018-9-21)。9月20日までに EU 諸国の患者数は 1,134 人にのぼっており、昨年の 3 倍以上の数です。とくにイタリアで 453 人、ギリシャで 224 人と患者数が多くなっています。西ナイル熱はイエカに媒介されるウイルス性疾患で、一部の患者は脳炎などをおこし、死亡することもあります。有効なワクチンや治療薬はなく、予防には蚊に刺されない対策をとります。イエカは夜間吸血する習性があるため、流行地域で夜間外出する際には、皮膚を露出しない服装をしたり、昆虫忌避剤を使用してください。

・米国・ニューヨークの空港で呼吸器症状の患者が多発

ニューヨークのジョン・F・ケネディー空港で、9月5日にサウジアラビア・メッカから到着した航空機の乗客・乗員約 100 人に、咳や嘔吐などの症状がみられました(ProMED 2018-9-6)。このうち 10 人はインフルエンザと診断されましたが、残りの乗客・乗員は心理的な影響で症状をおこしていたようです。メッカでは 8月24日まで大巡礼が行われており、インフルエンザの流行がみられていました。